
UWS企画②： チュートリアル&パネルディスカッション

NICT Cyber Security Laboratory
Akira FUJITA

自己紹介

- 藤田 彬

- 情報通信研究機構(NICT) 主任研究員

- 略歴

- (学)横浜国立大学教育人間科学部08卒, (修)同大環境情報学府09了
- (博)同大環境情報学府12博了 博士 (情報学)
- 2013~2016 国立情報学研究所(NII) 宮尾研 特任研 → 新井研 特任助教
- 2017~2020 横浜国立大学 吉岡研 特任助教
- 2020~現在 NICT CSL/CYNEX/NCO 主任研究員

- 取り組んできたこと

- 自然言語処理/東ロボ/人間の言語処理/Network, IoT, Webセキュリティ



採択された論文の研究概要

Nissy Sombatruang, Tristan Caulfield, Ingolf Becker, Akira Fujita, Takahiro Kasama, Koji Nakao and Daisuke Inoue. "**Internet Service Providers' and Individuals' Attitudes, Barriers, and Incentives to Secure IoT**"



A paper accepted and presented
in **USENIX Security '23**

採択に至るまでのスケジュール

● USENIX Securityのレビューの流れ（私達の事例に沿ってご説明）

- 21/10/13 Sec '22 Fall 投稿 ※この前にCCS2021に投稿しており21/7/21にReject通知
- 21/11/20 Round twoへの通過通知
- 22/1/11 AM2:28 Author Response period開始通知
 - 22/1/13 PM9:00までに700 words以内のresponseを返すよう求められる
 - (UCLメンバと緊急テレカン)
- 22/1/13 PM8:56 Response投稿
- 22/1/21 Major Revision通知
- 22/6/8 Sec '23 Summer Major Revision投稿
- 22/7/15 Still under review 通知
- 22/9/3 Conditionally Accepted (Accept on Shepherd Approval) 通知
 - アサインされたShepherdとともにrevision requestを慎重に読み解き対応
- 22/9/22 Shepherdより ” *All look good to me. Please submit your camera-ready draft* ” のメール ≡ **Accepted通知**

採録までの諸々のエフォート(1/2)

- **費やした時間：調査計画開始(2020年1月位)から採録まで(2022年9月)までの33ヶ月。のべ実働時間はカウントしておらず。**
 - 役割分担していたため正確な算出は困難
 - Nissy: 調査計画・結果分析+草稿執筆、Ingolf & Tristan: 原稿推敲+UKサイド調査、藤田&笠間: JPサイド調査計画・実施・結果整理分析+UKサイドとの調整、中尾&井上: 調査監修・ISP協力要請及び座組設定+調査予算調達
- **実験回数：(JPサイドのみ)計5回__レビュー中の追加要請はなし**

採録までの諸々のエフォート(2/2)

● レビュー者に指摘された箇所（主にユーザスタディ関連）

- インタビュー、ワークショップ、2カ所（JP/UK）の調査など、多くの断片がきれいにまとまっていない。研究デザインをもっと簡潔に説明できれば、この研究の重要な発見とメッセージがより明確に伝わるだろう。例えば、UKのデータを含めないことを検討してはどうか。UKのISPは本調査に含まれていないため、UKのデータが本調査に重要な知見を示して…（以下、略）
- この研究の貢献として、個人へのインタビューを記述しないことを検討する。代わりにそれらが本調査の設計のためのパイロットスタディだったと一文にまとめ…（以下、略）

**調査をたくさんしたからといって全部書けばよいということではない、
論の道筋がぶれるくらいなら触れない方がまだ。**

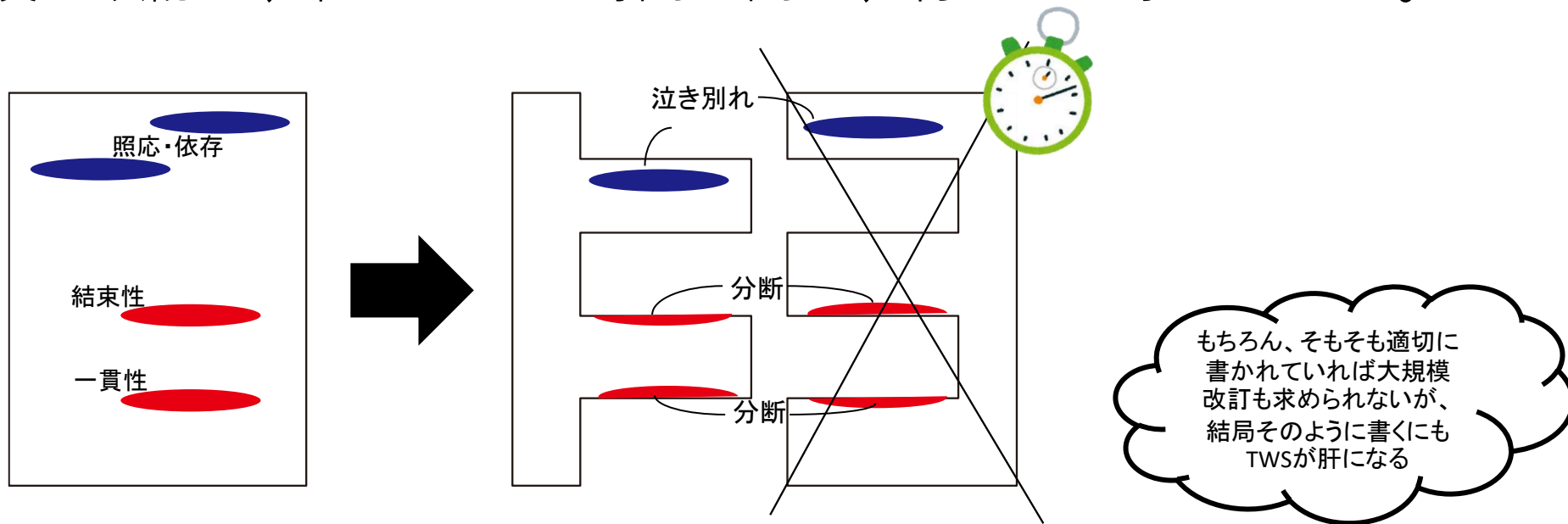
（つまり、RQに直接絡まない調査であれば、初めからしない、もしくは補助調査だと弁えるべし、と解釈）
という金言として心に刻む。

- 検定結果の記述において、使用した統計量、p値、効果量が必ずしも示されていない。 具体的にどのような検定が行われたかを明確にするために、この点を改めるべきである。特に、ISPのサンプルサイズが比較的小さいため、統計的検出力が十分でない可能性が高く、含まれる統計結果は信頼できないかもしれない。

採録を経験して私が心得たこと

● Technical Writing Skillの重要性

極めて大きな規模の改訂を、極めて短い時間の間に、行うよう求められる。



こぼれ話： Major RevisionとShepherdingで、Tristan & Ingolfの神速修正対応に救われる。同時に憧れる。

藤田

何でそんなに速いの？

簡単さ。とことん、
Technical Writingの訓練を受けたんだ。
学生時代にね。

Tristan
& Ingolf